
夢で逢えたら

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢で逢えたら

【Nコード】

N6619U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

ドラゴンクエスト8の主人公×ミーティアのお話。
ある夜見た夢で、主人公と姫は会えた。
これはどちらの夢なのか。

dノベ転載。

目を覚ますと、目の前にはミーティアの顔があった。

「まあ、エイト、こんな所で会えるなんて！

きつとミーティアがエイトに会いたいという気持ちを通じたのですね！」

ミーティアは嬉しそうに僕の顔を覗き込んでいた。

うん、そうだ、僕は寝ていたんだ。

とりあえず、このままの姿では姫に失礼にあたるので、起き上がって、彼女と向かい合わせになった。

「これは、どういうことなのでしょう。僕は確か寝ていたはずなのですが……」

「ええ、ミーティアもそれは同じです。

だからきつとここは二人の夢の中だと思います」

「はあ……」

たまに僕は彼女の言っていることが理解できなくなる時がある。どうやったらそういうことになるのか。

でも、この状況だと、それを信じるしかないようだ。

「そうですか。なんだか変な感じですね。姫様とこうして会えるなんて」

そう言つと、ミーティアは急に悲しげな顔つきになった。

しまった

！

「そうね。私は今お馬さんの姿でしたから。あの不思議な泉がなければ、エイトとはずっとお話できませんでした」

彼女にこんな顔をさせてしまうなんて！

「姫、僕は……」

「それよりエイト、ここは夢なのだから、敬語はやめて。子供の時のようにお話ししよう」

ミーティアは僕の言葉も遮って、そう言った。

そういうところは本当に昔から変わらない。

思い込んだら一直線なのだ。

「いきなりそのようなことを言われましても、姫……」

「違います、エイト。ミーティアと呼びなさい。命令です」

ミーティア、根本的なところが違う気がするんだけど……。

そう言われてはしょうがないので、とりあえず言うことに従うことにした。

「なんか、こういうのは、久しぶりだよね、ミーティア」

ミーティアは満足したのか、うんうんと笑顔でうなずいている。

こういうところに困りながらも、僕はそんな彼女を可愛いと思っていた。

「やはりこれはミーティアの夢だから、エイトがミーティアの言うことを聞いてくれるのですね」

いえ、僕はいつもあなたのことを聞いていますよ……。

なんだかだんだん自分が情けなくなってきた。

ミーティア、いつになったらいい加減気づいてくれるんだい。

だが、僕は気づいた。

待て。ここは僕の夢でもあるんだ。だから

「ねえ、ミーティア。それなら、ここは僕の夢でもあるから、僕の思い通りにもできるんだよね」

「そうですね。素敵ね、二人の夢が合わさって、二人の好きなようにできる世界なんて」

「ああ、そうだね。それならミーティア、君も僕の言うことを聞いてくれるんだよね」

「ええ、そうですね。何でしょうか？」

僕は、ミーティアの手を取り、引き寄せた。

次の瞬間には、彼女の体は僕の体におさまっていた。

僕は、離れないようにギュッと抱きしめた。

ミーティアは驚いたのか、そのままの状態で固まっている。

久しぶりに感じる、彼女の感触、匂い。

彼女の体はこんなにも温かく……小さかつただろうか。

それでも、変わらない彼女の匂い。

花のような、太陽のような、気持ちを暖かくさせる香り。

「ごめんね、ミーティア。いきなり。でも、こういう時でないときないと思ったから。これは君の夢であり、僕の夢だから、言うよ。夢から覚めたら忘れて。覚えてても、忘れたふりをして。」

僕は君が好きだ」

ミーティアは黙っていた。

まあ、いきなりこんなこと言われたってどうしようもない。当たり前前だ。

と思った時だった。

「！」

ミーティアが僕を抱きしめ返してきた。

「……これは夢だから、今だけは、このままで……」
「……………」

僕は何も言うことができなかった。

いや、言葉はいらなかったのかもしれない。

そう、今この時だけでも、ミーティアといえれば。

夢から覚めたら、こうして君といることはできないんだから。

せめて、夢でだけ。

RAN

2005/12/11

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6619u/>

夢で逢えたら

2011年7月8日14時56分発行